

人間の役に立つ!

働く犬の活動

昔から人と共に暮らしてきた犬の中でも、自らの仕事を持ち、さまざまな場面で生活をサポートする働く犬の活躍を紹介。

ワン



①「視覚障害者と歩くことを想定して訓練することが重要」と訓練士の楠 紗代子さんは言う。盲導犬は10歳で引退し、ボランティア宅で暮らす

京都・亀岡

**公益財団法人
関西盲導犬協会**

☎0771-24-0323

視覚障害者がいつでも行きたい場所に、安全に行ける社会の実現を目指し1980年に創立。質の高い盲導犬の育成と無償貸与、盲導犬訓練士および歩行指導員の養成などを行う。

函館市曾我部町犬飼未ヶ谷18-2
毎月第3日曜日見学会あり(要予約)
函館市内約20台(無料)函館駅よりタクシーで15分、京都縦貫道函館ICより車で10分

**大らかな性格も
盲導犬の資質の一つ**

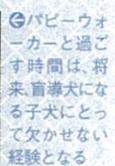
働く犬として身近に目に見える機会が多いのが盲導犬。視覚障害者と共に行動し、安全な歩行をサポートする盲導犬に求められるのは、人に役割を与えることに喜びを感じられる性格。なかでもラブラドール・レトリーバーは、高い学習能力や人の歩行をサポートする運動能力など最適な資質を備えている。加えて、盲導犬は時と場合により「待つこと」も仕事。つねに緊張することなく、環境の変化にも動じない大らかな気質も大事な素養の一つだ。



盲導犬



ハーネスと呼ばれる白い胴輪を付け、視覚障害者が安全に歩行できるようサポートするために訓練された犬



盲導犬は生後2か月でパピーウォーカーと呼ばれる飼育家庭に預けられ、1歳から協会の施設で本格的な訓練を受ける。16年に新たな訓練施設「木香テラス」が完成。世界的にも先駆的でストレスフリーな育成環境として注目を集めている。訓練は、明るく楽しい雰囲気で行うことを心がけ、無理なく訓練に取り組める工夫がされている。

約1年の訓練を経て盲導犬になるのは約3割だが、ほかにも繁殖犬、協会PR犬など視覚障害者にとって盲導犬は命綱だが、大と一緒にいることで生活にリズムが生まれ、外出に積極的になるといった効果も。いわば人生と共に歩むパートナーでもあるのだ。

子犬のころから始まる育成と訓練で一人前に



①訓練士の安隨尚之さんと見学会で一緒に写ったQちゃん(7歳)。数々の現場を経験してきたG15年のネバーラル地震で捜索中のエイトちゃん

兵庫・伊丹

日本レスキュー協会

☎072-770-4900

災害救助犬・セラビードッグの育成・派遣を中心活動するNGO団体。国際救助機関として世界的に認められる災害救助犬の育成を目指し、災害時には国内外の幅広い地域で活動。

伊丹市下河原2-2-13
毎月第3日曜日見学会あり(要予約)
7~9月は休業)函館市内約5台(無料)
函館駅より徒歩10分

阪神・淡路大震災を機に注目された災害救助犬

阪神・淡路大震災で海外から派遣されたことで、存在を知られるようになつた災害救助犬。当時、国内ではほとんど普及しておらず、震災を機に各地に育成機関が設立されるようになつた。なかでも「日本レスキュー協会」は専属の訓練士と災害救助犬が常時災害に備える数少ない専門機関だ。荒れた現場を動き回る災害救助犬は、運動能力に秀でた中大型犬の中でも、人との協調性が高く、鼻が長く嗅覚が鋭いシェパードやラブラドールがほとんどを占める。



②トレーニングフィールドには高所訓練や障害物訓練ができるタワーなどが設置されている



東日本大震災時は救助隊の一員として被災地に入ったことで災害救助犬の存在が認められた

災害現場を想定した場で短時間集中で実践訓練

災害救助犬



地震や台風、土砂崩れなど災害で行方不明になっている人を、優れた嗅覚で捜索するため特別に訓練された犬たち

災害救助犬の任務は、警察犬などと異なり、倒壊家屋や瓦礫の中から不特定の人の匂いを探す力が求められる。普段から、災害現場を想定したフィールドで隠れた人を見発見する実践捜索を行なうが、犬の集中力は短いので約15分区切りで訓練。隠れた人が犬の好きな玩具を持つなど、楽しみながら意欲を刺激し、訓練に達成感を持たせることが重要だ。一人前になるには約3年かかるが、出動時はいきなり本番。危険な現場で力を発揮するには心身のタフさや人との連携、経験の蓄積が不可欠だ。とはいっても災害現場での有効活用はまだ途上。自治体や救助機関との連携をより深めることで、災害救助犬の活躍の場はさらに広がるはずだ。